

※ かい答は、《かい答用紙》に書きましょう。

山川さんたちは、宮沢賢治の「セロひきのゴーシュ」の心に残った場面を選んで、読書集会で発表します。次は、山川さんが【読んだ場面】と【説明】です。

【ここまでのあらすじ】

ゴーシュは、音楽団でセロをひくのが仕事です。しかし、そのえんそうは、仲間の中で一番下手でした。そんなゴーシュのところへ、ねこ、鳥、たぬきたちが、えんそうをききに、やって来るようになりました。ゴーシュにとつて、それはいつしか、セロの「ひみつのとつくん」になっていました。

動物たちが来るようになってから六日目の夜、ゴーシュの音楽団が町のホールで開いたえんそう会は、大成功となりました。



【読んだ場面】

「さあ、出て行きたまえ。」

※₂ 楽長が言いました。みんなも、セロをむりにゴーシュに持たせるとびらを開けると、いきなり、※₃ アンコールのぶ台へゴーシュをおし出してしまいました。ゴーシュが、そのあなの開いたセロを持って、実にこまってしまつてぶ台へ出ると、客のみんなは、そら見ろというように、一そうひどく手をたたきました。わあと、さけんだ者もいるようでした。

※₄ 「どこまで人をばかにするんだ。よし、見ている。『インドのとらがり』をひいてやるから。」

ゴーシュは、すっかり落ち着いて、ぶ台のまん中へ出ました。

それから、あのねこがゴーシュのえんそうをききに来たときのように、まるでおこったぞうのようないきおいで、『インドのとらがり』をひきました。ところが、客は、しんとなって一生けん命きいています。ゴーシュは、どんどんひきました。あまりの曲のいきおいに、ねこが、ぱちぱち火花を出したところもすぎました。ねこが、とびらへ体を何べんもぶつつけたところもすぎました。

※₁ セロ：楽器のチェロのこと。 ※₂ 楽長：音楽団の長。

※₃ アンコール：えんそう会のあとに、客がもう一曲ひいてほしいと願うこと。

※₄ 『インドのとらがり』：ゴーシュのところへねこが来たときにひいた曲。

曲が終わると、ゴーシュは、もうみんなの方は見もせず、ちょうどそのねこのようにすばやくセロを持って楽屋へにげこみました。楽屋では、楽長をはじめ仲間が、みんな火事にでもあった後のように目をじっとして、ひっそりとすわりこんでいます。ゴーシュは、①やぶれかぶれだと思って、みんなの間をさっさと歩いて行って向こうの長いすへどっかりと体をおろして足を組んですわりました。

すると、みんなが一ぺんに顔をこつちへ向けてゴーシュを見ましたが、やはりはじめで、別にわらっているようでもありませんでした。

「今夜は、変なばんだなあ。」

ゴーシュは思いました。

【説明】

この場面で、ぼくが注目したのが「今夜は、変なばんだなあ。」というゴーシュの言葉です。アンコールのぶ台にゴーシュがおし出されたとき、ゴーシュは、いらいらした気持ちでいました。それは、ゴーシュの「(②)」という会話文からよく分かります。でも、ゴーシュは、すぐに気持ちを切りかえて、『インドのところがりをいきおいよくひきました。その様子を、宮沢賢治は、「まるで起こった(③)」のよう」にひいたと表しています。

いっぽう、お客さんは、ゴーシュのえんそうを、しいんとなって一生けん命ききました。ゴーシュは、そんなお客さんのことを見るよゆうがないほど、曲に集中していたでしょう。えんそうが終わると、「(④)」のようにすばやく「楽屋へにげこみました。楽屋では、音楽団の仲間が、まじめな顔でゴーシュを見ました。けれども、ゴーシュは、自分のえんそうが(⑤)」ことに気づいていないのです。だから、「今夜は、変なばんだなあ。」と言ったのです。

では、続きを読みます。

「今夜は、変なばんだなあ。」

ゴーシュは思いました。ところが、楽長は立って言いました。

「ゴーシュ君、よかったぞお。あんな曲だけれども、ここではみんなかなり本気になってきてたぞ。一週間か十日の間にずいぶん仕上げたなあ。十日前とくらべたら、まるでちがう。やろうと思えばいつでもやれたんじゃないか、君。」仲間もみんな立って来て、

「よかったぜ。」

とゴーシュに言いました。

- 一 山川さんは、【読んだ場面】の中の——線部①「やぶれかぶれ」の意味がよく分からなかったので、辞書で調べました。「やぶれかぶれ」を正しく使っている文として、最もふさわしいものを次のアからエまでの中から一つ選んで、その記号を書きましょう。
- ア おにごっこ最後の一人で、やぶれかぶれににげたがつかまった。
イ 夏のキャンプでは、虫や植物のやぶれかぶれに注意してほしい。
ウ やぶれかぶれになった小さいサイズの服を、すてることにした。
エ えんそうをきいた客から、やぶれかぶれのはく手がわき起こる。

やぶれかぶれ

どうにでもなれという気持ちであること。また、その様子。

- 二 【説明】の中の②に入る会話文として、最もふさわしいものを【読んだ場面】の中からさがして、最初の四文字を書きましょう。なお、読点（、）は、字数にはふくみません。

- 三 【説明】の中の③（、）④（ ）に当てはまる動物として、最もふさわしいものを次のアからエまでの中から一つずつ選んで、その記号を書きましょう。

ア たぬき イ ねこ ウ ぞう エ とら

- 四 【説明】の中の⑤（ ）に当てはまる内ようを考えて、五字以上、十字以内で書きましょう。



番号前 (

)

一

二

三

③

④

四

5

10

一 ア

二 どこまで

三 ③ ウ ④ イ

四 例1 .. とてもよかった

例2 .. すば^{すば}らしかった

例3 .. 上^{じょうず}手^てになっている

例4 .. 客^{きやく}の心^{こころ}をつかんだ

例5 .. 仲^{なつ}間^まにみとめられた